

「地域に学び、地域に還る学習」を通して生徒の学びの深化を目指す実践研究 —中学校美術部、生徒会活動を中心とした継続的な地域連携活動の経過に着目して—

飯田市立竜峡中学校 百瀬雅也

☆研究の概要

飯田市立竜峡中学校のグランドデザインには、「地域と共に」が重点項目に掲げられ、生徒が地域と関わりながら主体的・協働的に学びを深めることを願いとしています。本研究はこの重点を背景に、生徒が地域との関わりを通じて、能動的に学び、自ら考えを深め、学んだことを地域に還元するという循環持続的な学び、「地域に学び、地域に還る学習」を具現化する、生徒の学びの深化を目指しました。そして美術部や生徒会活動での継続的な地域連携活動の実践から、現在までの成果を明らかにしました。美術部の実践では、生徒が地域の人的・文化的資源を活用しながらアートワークショップの企画・運営、福祉施設との共同制作活動などに取り組む中で、他者への意識や自己肯定感が育まれ、能動的な学びが実現された点に注目し、学習の深化に寄与した要因を考察しました。成果の一つとして、自治体や美術館、地域住民、福祉施設などとの、美術を媒介とした交流・連携を通じ、主体的・協働的な学びにつながる『「学校と地域の連携」を具現化する連携指針』を構築することができました。さらに、この連携指針が生徒会活動へ波及した点についても考察しました。まとめとして三つの観点から実践を振り返り、さらなる循環持続的な学びの実現に向けた課題を明確にしました。

1. 研究の目的

筆者はこれまで「地域に学び、地域に還る学習」の具現化を自己課題として実践を行ってきた。この自己課題について、4年間にわたって取り組んできた美術部や生徒会における地域連携活動の経過を振り返り、次の三点を検討することを目的とした。

- ① 「生徒が継続的に地域連携活動を行うことでどのような資質・能力が得られるのか」
- ② 「『地域に学び、地域に還る学習』をどのように改善できるか」
- ③ 「今後より良い学びを実現するための課題とは」

2. 学校と地域の連携活動の実際（美術部の取り組みと生徒会活動への波及）

・美術部の活動の様子

美術部の活動では、個人の作品制作に加え、日常的に部員が企画・運営を行い、地元施設などでアートワークショップ活動を行ったり他団体との共同制作・展示活動を行ったりしている。地域に出て活動を行うことで、「地域の人々に美術の創造活動を楽しんでもらうこと」を重視しながら、「どのようにしたらさらに地域の人々を美術で楽しませることができるのか」と考えを深め、様々な活動の企画立案、実践、振り返り、次への改善を繰り返しながら継続して活動を行っている。



飯田市美術博物館へ訪問し、特別研究員の先生からアートワークショップの手法を学ぶ様子



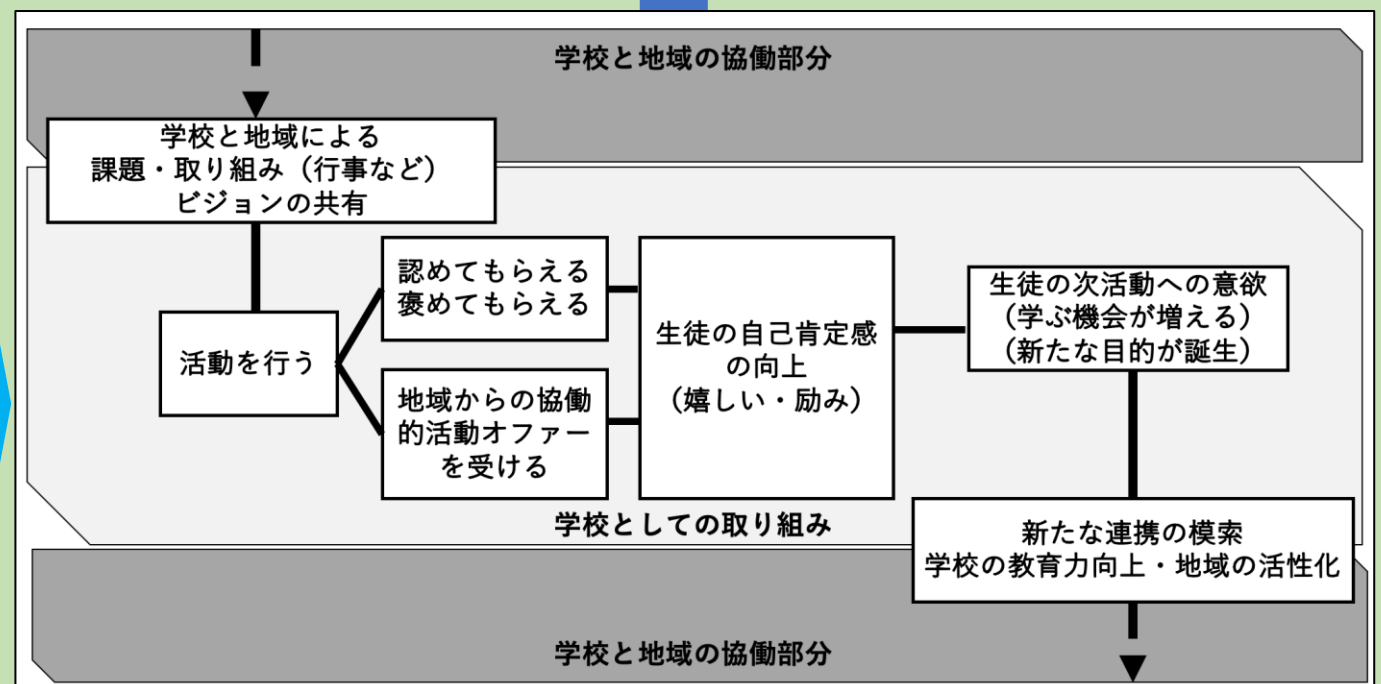
桜の木染ワークショップで美術部員が参加者に技法を教える様子



飯田人形劇フェスタ川路地区公演に向けたオリジナルステンドグラス制作ワークショップの成果品の展示風景



飯田市福祉課「結いのアート作品展」で福祉施設利用者とのコラボ作品展示風景



「学校と地域の連携」を具現化する連携指針

・生徒会活動（地区生徒会）への波及

本校には、地域と連携した地域貢献活動の企画・運営を通じて、地域について体験的に学ぶ「地区生徒会」が組織されている。しかし近年は感染症拡大により地域との連携がしにくい状況にあった。その状況で、地域側が、美術部の地域連携活動に注目し、共有されてきた「連携指針」を活用する形で、「生徒会活動との連携も行いたい」と要望が寄せられ、連携ビジョンの共有を行った。そして生徒主体で「地域ボランティア掲示板」や「地域をもっと知る会」を計画し、生徒が地域を身近に感じるとともに、学校と地域の協働活動が活発化する成果があった。

3. 実践の成果と今後の課題

自己肯定感や他者意識、主体性の向上が見られた。学校と地域の連携が生徒の資質・能力のさらなる深化につながるということが明らかになった。

- ① 「生徒が継続的に地域連携活動を行うことでどのような資質・能力が得られるのか」
 - 1) 自己肯定感と他者意識の向上
 - 2) リーダーシップと主体性の育成
 - 3) 地域に根ざした学びの実践力
- ② 「『地域に学び、地域に還る学習』をどのように改善できるか」
 - 1) 地域資源を活用した学びの深化
 - 2) 地域住民との協働の質の向上と振り返りの充実
- ③ 「今後より良い学びを実現するための課題とは」
 - 1) 継続的な支援体制の整備
 - 2) 活動の多様化と生徒の動機づけ
 - 3) 地域との双方向的な関係構築

加えて、令和6年度全国学力・学習状況調査の質問項目25「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」について、本校と全国平均の比較資料や経年調査結果をもとに令和6年度の優位の結果が示された。研究の成果が直接結果につながっているという評価はできないが、竜峡中学校の学校教育全体で、地域連携活動を通じてグランドデザインの実現に向けた着実な進展があることを示す結果となった。

今後の課題として、活動の継続性や多様化に向けた工夫などの課題も明確になった。これらの成果と課題を踏まえ、今後も地域連携活動を通じて、生徒の成長と地域の活性化の両立を目指す循環持続的な学びの形を模索していきたい。

謝辞・文献

＊本研究の成果の一部は、JSPS科研費奨励研究JP24H02461「地域の美術館・自治体と連携した中学校美術部における地域部活動モデルの構築と実践」の支援を受けたものです。
・文部科学省中央教育審議会答申（平成28年12月21日）「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」
・文部科学省(2018)中学校学習指導要領(平成29年告示)
・福井正仁(2024)「研究エッセイ 中学生がつくる美術の授業」『全人 第892号』p.20-23, 玉川大学教育情報・企画部
・東京都港区立青山中学校（2023）「中学生がつくる美術の授業 リーフレット」